

「コシヒカリ」今昔

中国某県のコシヒカリ共励会では受賞者のうち9名が701～792 kg, 2名が673, 685 kgであったという。その対岸の県では、コシヒカリ1,000 ha突破記念推進大会で、689 kgの最優秀者が倒伏にからむ体験を発表した。

コシヒカリが新潟・千葉で奨励されはじめてから30年めの今日、コシヒカリは35県で35万haも作られ、ほとんどの県農業試験場が作り方の研究を行なっている。コシヒカリは、昔は倒伏するので危ぶまれ、機械田植・収穫への移行の折には「機械化不向」とされた品種である。ところが、今はコシヒカリの稈長が10 cmくらい短めに作られている。西日本の山間地で、とくにそれが顕著のようである。コシヒカリの姿を変えたのは、機械移植による早植えと密植、極度の基肥減量と後期栄養の強化、早い中干しと落水期の延長などの栽培技術である。

昭和45年ころ、戸荻先生はご退官記念講演の中で「コシヒカリが10 cm短かったら完べき」といわれた。私は「クレオパトラの鼻が歴史を変えた」とつぶやきながら聞いていた。

先般、植調試験において倒伏軽減剤に「実・継」の判定がなされた。8道県を除く全都府県がコシヒカリに対してその試験を行ってきた。その登録と実用化の暁には、コシヒカリはさらに短く硬くその稈を変え、生産者と消費者をつなぐ長寿の品種となるのではないかと期待される。品種を産むのも楽しいが、その潜在形質をひき出しながら育てるのも楽しいものである。生育調節剤が、コシヒカリの栽培技術を変えてくれる日を楽しみに待ちのぞみたい。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 国武正彦〕
北 陸 支 部 長

目 次 (第19巻第2号)

北海道の畑作農業……………2

＜北海道農業試験場 中山兼徳＞

自 然 条 件……………2

(1) 気 象……………2

(2) 土 壌……………4

作 付……………5

(1) 作物の種類と輪作……………5

(2) 畑作の動向……………6

表土剥離とその対策について……………8

＜青森県農業試験場 浪岡 実＞

1. は じ め に……………8

2. 発生分布と発生生態……………8

3. 防 除 法……………10

クサネムの生態と防除法……………14

＜北陸農業試験場 古谷勝司・原田

二郎＞

ま え が き……………14

1. 発 芽 特 性……………15

2. 出 芽 特 性……………16

3. 防 除……………16

あ と が き……………17

世界の農耕地雑草とその調査研究(6)

——ゴマノハグサ科(2)——……………17

＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞

昭和59年度常緑果樹関係除草剤・生

育調節剤試験成績概要……………31

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞